

「メールヘッダ」の解析方法

「メールが遅れて届く」と言う場合の確認方法です。  
この場合、メールのヘッダ情報を確認することで、ほとんど、原因の割り出しが可能です。  
以下、Microsoft Outlook Express 6.0 を例にとって、メールのヘッダ情報の説明をします。

受信ボックスのメールを選択した状態で、「ファイル」メニューから「プロパティ」を選択します。  
新しくウィンドウが開きますので、「詳細」タブをクリックすると、「このメッセージのインターネットヘッダー」が表示されます。

以下が具体的なサンプルです。(黄色いコメントは私が追加したものです)

-----ここから-----  
Return-Path: <sender@abcde.jp>  
Delivered-To: receiver@abcde.jp  
Received: from mx3.abcde.jp (mx3.abcde.jp [210.248.175.112])  
by omakase3.vds.nttls.co.jp (8.13.6/8.13.6)  
with ESMTTP id k7M8S9Ls029451 for <receiver@abcde.jp>;  
Tue, 22 Aug 2006 17:28:09 +0900 (JST)  
Received: from scan1.abcde.jp (scan1.abcde.jp [210.248.175.11])  
by mx3.abcde.jp (Postfix)  
with ESMTTP id 0646C1173E4 for <receiver@abcde.jp>;  
Tue, 22 Aug 2006 17:28:08 +0900 (JST)  
Received: from scan.abcde.jp (scan.abcde.jp [210.248.175.5])  
by scan1.abcde.jp (Postfix)  
with ESMTTP id A7D9D2584D1 for <receiver@abcde.jp>;  
Tue, 22 Aug 2006 17:28:08 +0900 (JST)  
Received: from 3041 (p8888.tokyo.sender.ne.jp [60.39.143.\*\*\*)  
by scan.abcde.jp (Postfix)  
with ESMTTP id 83D8BCC45E for <receiver@abcde.jp>;  
Tue, 22 Aug 2006 17:28:08 +0900 (JST)  
Message-ID: <002301c6c5c4\$e5698ec0\$9888a8c0@3041>  
From: おまかせサンプル <sender@abcde.jp>  
To: おまかせ登録窓口 <receiver@abcde.jp>  
Subject: サンプルメールです。  
Date: Mon, 21 Aug 2006 22:55:04 +0900  
MIME-Version: 1.0  
Content-Type: multipart/alternative; boundary="-----\_NextPart\_000\_001F\_01C6C610.5362D440"  
X-Priority: 3  
X-MSMail-Priority: Normal  
X-Mailer: Microsoft Outlook Express 6.00.2800.1437  
X-MimeOLE: Produced By Microsoft MimeOLE V6.00.2800.1441  
-----ここまで-----

D. 受信者のサーバが受け取った時間

C. 2 番目の中継サーバが受け取った時間

B. この部分が送信者が契約しているプロバイダのサーバが送信者のパソコンからメールを受け取った時間(送信者が送信ボタンを押した時間ではありません)

A. Outlook Express が「送信日時」として表示する時間=送信者が送信ボタンを押した時間

インターネットに接続されるメールサーバは、SMTP といわれる手法を使って通信を行っていますが、中継したサーバの数だけ、上記サンプルにあるように「Received:」と書かれている情報をメールに付加していきます。

一番下にある「Received:」が、発信者からのメールを最初に受け付けた送信サーバの情報となり、順に上に行くほど受信者に近いサーバが受け取った時間になります。

その後、いくつかのサーバを中継して、最終的に実際にメールを受信するサーバに届きますが、一番上の「Received:」が、受信者(山中さん)の受信サーバに届いた時間になります。

このサンプルでは、送信動作からサーバの受信まで、16 時間半ほどで到達したことになっていますが、メールが遅延して届いたと思われる場合は、この「Received:」行を下から確認していくと、何処のサーバで中継に時間がかかったのかがわかります。

ここで、一番重要なポイントですが、Microsoft Outlook Express 6.0 では、「送信日時」には、コメントの A.にある青色の行の「Date:」とある部分が表示されます。

これは、送信者がメールソフトの送信ボタンを押した時間であり、送信サーバが受け取った時間とは異なります。上記の例でいくと、送信者は 8 月 21 日 月曜日の夜 11 時近くに送信動作をしていますが、実際に送信者のプロバイダのサーバは翌日の午後 5 時半ころに受け取ったことがわかります。

これは、Outlook Expressは何度も説明したとおり、送信ボタンを押したときには、パソコンの送信トレイに一旦メールを仕舞い込み、その後一定時間ごとに受信動作と送信動作をセットで行います。メールの発信者がパソコンの電源を落とす直前に送ったつもりメールが、実際には「送信トレイ」に残った状態になっており、翌日、メールソフトを立ち上げて「送受信」を実行した時に送り出されるのが一番多い例です。この例のようになっていると、送信者は21日に送ったつもりですし、受信者も受信メールを見ると21日に送信されているように見えるのに、例えば22日の朝パソコンを立ち上げてメールチェックしたときにはメールがなかったのはどうしてだろうと疑問がわくと思います。

この場合は、一番下の「Received:」行（ピンクの行）を確認すると、送信サーバ受け取った時間が「Date:」（青色の行）に表示されている時間と大きく違うことがわかるはずですが。もちろん、これ以外にも途中の中継サーバが何らかの故障で、受け取ってから次のサーバに送信するまでに時間がかかることも考えられますが、実際にはそうしたケースは非常にまれで、しかもそれが時々起きるというケースは聞いたことがありません。（そんなことが時々起きると、メールを業務用に使っている人たちは支障が出ますので、そのサーバは信頼性が低いと周りのプロバイダから指摘されてしまい、改善せざるを得なくなります）

下の図はメールの送信から受信までのイメージです。A~Dは前のページのコメント枠の番号に対応しています

